

# 病原性ウイルスの発見から人獣共通感染症の対策へ

山口大学提供  
作成日 2016年3月22日  
更新日

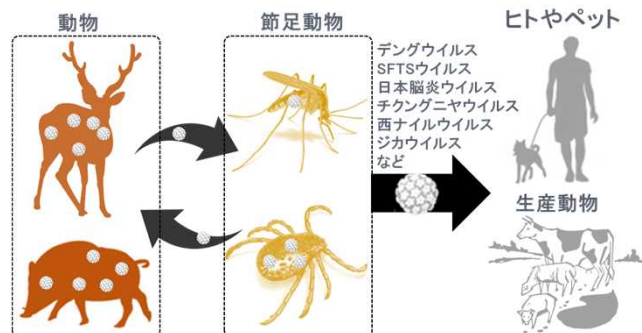


<b>研究者氏名</b> まえだ けん 前田 健	<b>所属機関</b> 山口大学共同獣医学部	<b>関連キーワード(複数可)</b> ウイルス、動物由来感染症、重症熱性血小板減少症候群、節足動物媒介感染症、人獣共通感染症
<b>主な研究テーマ</b> ・動物由来感染症の網羅的調査 ・ウイルスの変異機構と病原性獲得機序の解明 ・節足動物媒介人獣共通感染症の発症機序の解明		<b>主な採択課題</b> ・挑戦的萌芽研究 平成24～25年度(配分総額:4,030千円) 課題名:「高感度ウイルス検出細胞の樹立」 ・基盤研究(C)平成21～23年度(配分総額:4,940千円) 課題名「ウイルスの異種間伝播による感染拡大要因の解明とその制御」

## ① 科研費による研究成果

- ・新興感染症は動物由来のものが多く、その診断、治療、予防の重要性が認識されてきている。本グループの成果から動物由来感染症の診断、治療、予防につながる新しい成果が得られた。
- ・本グループの日本脳炎の研究において都心におけるペットなどのイヌの感染動向にも注視していく必要性を明らかにした。(Shimoda H, EMERG INFECT DIS, 16(7), 1137-1139, 2010)
- ・本グループは日本で初めてマダニ媒介性の重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスを発見した(Takahashi T., et al, J INFECT DIS, 209(6), 816-827, 2014)。SFTSは原因不明の発熱、嘔吐、下痢などの症状が見られ、重症化した場合には死亡することもある重篤な感染症である。本発見によりSFTS治療への研究が大きく前進することになった。

蚊やダニが運ぶ感染症



## ② 当初予想していなかった意外な展開

- ・感染リスクが低下したと見られていた日本脳炎ウイルスが動物の疫学調査により以前と変わらずリスクが高いことを証明した。メディアでも詳細にワクチン接種の重要性が報道された。(朝日新聞「飼い犬に25%日本脳炎感染 ウイルス運ぶ蚊身近 山口大学調査」)
- ・日本で初めてマダニ媒介性のSFTSウイルスを発見した本研究成果は感染症法が改正されることに貢献し、致死率25%の本感染症の診断を可能とした。この発見は各種メディアにも大きく報道された。(NHKEテレTVシンポジウム「感染症に備えるーエボラ・デング熱・マダニー」、NHK総合ニュース9「マダニのウイルス・ペットから人へ」、NHKおはよう日本「身近に忍び寄るマダニ」等々)

## ③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・過去に限られた地域での報告事例しかなかった人獣共通感染症が広く先進国でも患者発生が報道されるようになってきた。こうした新興感染症は治療法が未だ確立されていないため、まずはその発症原因(ウイルス等)の解明、診断技術の開発が急務である。本グループの研究は新興感染症研究に将来にわたって大きく貢献していくものである。